

麦畑

宮本百合子

青空文庫



十日程前、自分は田舎の祖母の家に居た。畑は今丁度麦の刈込みや田の草取りでなかなか忙しい。碧く、高く、晴れ晴れと、まるで空に浮いて居る雲を追って起伏して居るような山々の下に、重い愁わしげに金色の耕地が続いて居る。その中で、汗みどろに成った男や女が鎌を振り、火を燃して彼等の収穫にいそしんで居る。景色は美しい。青玉のような果が鈴なりに成った梅の樹の何処かで、百舌鳥の雛つ子が盛に鳴き立てるのを聞きながら、自分分は庭先の「うこぎ」の芽の延び過ぎたのを樹鋏みで切つて居た。

東京では如何うだか、東北地方では、「うこぎ」を生垣にして

置いて、春先に成ると柔かい新萌えの芽を摘んで、細かく刻んで、胡桃くるみやお味噌と混ぜて食べるのである。

頭に鰐広の帽子を被って、背中に山や沼を吹き越して来る涼風を受けながら、調子付いてシヨキリシヨキリと木鋏を動して居ると、誰か彼方の畑道を廻って来た人がある。

角まで来て日傘を畳んだのを見ると、近くに住んで居て、よく茶飲話をしに来るお婆さんである。私は

「今日は、なかなか暑うございますね

と声をかけて、片手に木鋏を下げ、片手で顔の前に下った帽子の鰐を持上げた。いつものお婆さんなら、少し鼻にかかった作り声で、滑るように

「お暑いこつてござりやすない

と返事をする筈なのである。

けれども、今日は如何うかして、小学校の子供のように、お婆さんは只コックリと頭を下げた限りで、ぼんやりと天日^{てんび}に頭を曝した儘、薄紫の愛らしい馬鈴薯の花を眺めて居る。

「どうなさいました。家へ入つて少し休みましょう

私はお婆さんを縁側に腰掛けさせて、お茶を入れた。喉が乾いて居ると見えて、お婆さんは殆ど機械的に三杯お茶を飲み干すと、始めて人心地が付いたように、眼を大きくして、四辺を見廻した。そして、手拭で頭の汗を搔くと、其を顎の辺に止めたまま、いきなり

「今日は、はあお仙さと伺いを立てにいぎやしてなあ

と話し始めた。何処でも田舎はそうなのか、村では占とか、御祈
禱、神様に伺いを立てる等と云う事が非常に流行する。其も、一
年の中で春から夏に懸けて、人々は、大抵の女は、何かと云うと
そう云う種類の話を持ち出すのである。

「はあ、何ちゆう当つたこつたか、

お婆さんは、太い溜息を吐いて、又手拭で顔を拭いた。

「私が、今年は足ろくさんに当つて居る事から、とつさまの事か
ら、はあ、すっかり当てやしてない、……お前さんは、まだまだ
心が堅まんねえ、量見が定まんねえから、駄目だつて云われやし
たの

お婆さんは、その身持ちの若松とかから来た若い女の「伺い」にひどく心を動顛させられたと見えて、神経的にボロボロ涙をこぼしながら、聞いて来た一伍一什を話して聞かせた。

その話しようが真個にもう恐ろしさや、驚きに負け切つて、到底黙つて辛棒して居られないと云う風なのである。

私は心の中で、漠然とした、然し可成に重苦しい陰気さを感じながら、お婆さんが旧の七月か九月には騒動が起つて、自分の身が定るだろうと云われたと云う事を聞いて居た。

自分の未来等と云うものに対しては、如何那人でも本能的に知り度い心持を持つて居るだろう、知り度い、非常に知つて見たい、怖いもの見たさの心持があるのだ。其で居て、いざ知らされると、

堪らないのだ。おばあさん、おばあさん、自分は又土に下りて、「うこぎ」の枝を切り始めた。

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第十八巻」新日本出版社

1981（昭和56）年5月30日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第2版第1刷発行

初出：同上

※手書き原稿から起こしたこの作品において、底本は「始めかぎ括弧」以下の会話分を、1字下げで組んでいます。ただしこのファイルでは、当該箇所には字下げ注記は入れませんでした。

入力：柴田卓治

校正：磐余彦

2004年2月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

麦畑

宮本百合子

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>